



## 航空自衛隊府中基地を見学

自衛隊東京地方協力本部台東出張所（所長 野川一陸尉）は6月3日、中央大学法学部の学生10名を引率し、航空自衛隊府中基地見学ツアーを開催した。本企画は、同校（茗荷谷キャンパス）の政治学会サークルから「宇宙作戦群について知りたい」という要望を受け、台東出張所が企画したものである。

当日は、宇宙作戦群、中枢気象隊及び航空中央音楽隊を訪問し、部隊の概要説明を受けた後、隊員との懇談と体験喫食を行った。特に宇宙作戦群隊員との懇談では、JAXAに勤めていた経験のある幹部隊員が参加し、学生から「政治・外交と宇宙作戦の関係」や「宇宙ゴミ」に関する質問が投げかけられ、学生の宇宙分野への関心の高さを感じ取ることができた。また、「なぜ自衛隊に転職したのか」という質問に対し、該当隊員は、「宇宙防衛の緊急性、重要性を感じ、これからは宇宙安全保障に貢献したいと思った。」と、これからの宇宙領域の重要性を学生に伝えた。

気象隊では、高度によって天気図が変わることや、コンピューターによる自動処理だけでなく、人の判断を伴って天気図を作成することの重要性について説明を受けた。音楽隊では、儀式や式典での演奏をはじめ、地域住民との交流、国際親善、災害時の慰問活動などを通じて、自衛隊の広報と信頼構築を担う役割を果たしていることについて説明を受けた。

学生からは、「将来は防衛省に身を置きたいと考えている。自衛隊の多様な職種や重要性を再認識し、就職先としての興味が増した。引き続き国防について勉強したい。」といった感想が聞かれた。台東出張所は、今後も国防を担うスケールの大きさとそのやりがいがあるイベントを企画していく。



## 「探究防災」授業を支援

自衛隊東京地方協力本部北地域事務所（所長 白岩一陸尉）は6月10日、板橋区にある都立北豊島工科高校において開催された「探究防災」授業を支援した。

この探究防災は、同校に全国初となる都市防災技術科があることから、1年生94名に対し防災に関する実技体験を目的に実施された。当日は第1普通科連隊本部管理中隊と第2中隊から装備品と要員の支援を受けた。はじめに全員に向けて自衛隊の災害派遣の活動内容と自助共助について講話を実施した後、グループに分かれて土の作成体験、ロープワーク体験及び災害派遣において使用する装備品展示を実施した。特に土の作成は当初慣れない面が見られたが、隊員からアドバイスを受けると、ひし形で千鳥状に積まれた、しっかりとした土のうを作成することができた。また、装備品展示では普段なかなか見ることができない自衛隊車両に乗り込んだりしたほか、隊員の説明を受けながら、人命救助システムを実際に手に取って確認していた。

参加した生徒からは「土のう作成にはコツが必要だったが、楽しんで取り組めた。」「ロープワークは普段の生活にも生かしてみたい。」などのほか、一部生徒から「自衛隊に興味を持った。もっと詳しく知りたい。」との感想も聞かれた。

北地域事務所は、今後も学校側と連携して学校教育の支援や防災意識の向上を通じて、自衛隊の理解を深めていく。

